資料１

令和３年６月22日
逸脱行為事案検討会

日本バイオアッセイ研究センターにおける試験手順書からの逸脱行為事案の概要（これまでの確認状況）

日本バイオアッセイ研究センターにおける試験手順書からの逸脱行為事案に関する検討会（以下「逸脱行為事案検討会」という。）による関係者へのヒアリング等を通じて、厚生労働省から依頼した試験に関して、現時点で把握されている事項は次の通りである。

なお、今後の調査が進む中で、さらに新たな事項が確認されることはありうることを留保しておく。

１．前提となる事実関係

日本バイオアッセイ研究センターにおいて実施される化学物質の有害性試験（以下「試験」という。）は、試験毎に定められた「試験計画書」並びに施設における設備の操作、被験物質や動物の取扱い及びデータの取扱い等を定めた「標準操作手順書」（以下「ＳＯＰ」という。）に基づき実施されている。

なお、被験物質の投与状況については、ＳＯＰでは、投与者が投与量指示シートに投与開始時間及び終了時間並びに投与チェックを記入しサインすることとされているが、具体的な投与チェックの方法は定められておらず、運用上は、投与量指示シートの各動物ごとの備考欄にレ点を記録すること又は投与中止とその理由を記載することにより、投与状況を記録していた。また、投与量指示シートは、定期的に被験物質の投与担当部門から試験責任者に渡され、当該試験責任者が投与状況を確認した後に投与担当部門に戻され、試験終了後再び当該試験責任者に渡される運用となっている。

２．2020年3月に開始され、同年3月31日から9月30日まで被験物質２－クロロベンゾイルクロリドの投与が行われたrasH2マウスを用いた強制経口投与による中期発がん性試験（試験番号0933、0934）について

試験番号0933、0934の試験においては、「瀕死、状態異常などの理由で投与実施が困難な動物は、その日の投与は中止する」との試験計画書の記述に基づき動物の一般状態を踏まえ被験物質の投与を中止した動物・試験日について、試験終了段階では投与量指示シートに投与実施した旨のレ点が記録されていたこと（以下「逸脱行為１」という）が確認された。

詳細は、別添１の通りである。また、現存する物証※1から確認される限り、投与を中止したにも関わらず試験終了段階で投与した旨のレ点が記録されていた回数（動物・試験日の数）は以下の通りと考えられる。

※１　具体的には、①試験責任者が試験中に作成した、週一回投与量指示シートを確認した時点で、レ点が記録されていなかった動物・試験日（投与しなかったと推察できる箇所）のリスト、②試験終了後に試験責任者に渡された投与量指示シートである。

これらを比較して一致しない箇所（動物・試験日の数）について、逸脱行為１があったと考えられる。

【試験番号 0933】雄
溶媒対照群　25 匹中　逸脱が行われた箇所なし
被験物質投与群　投与量 250mg/kg　25 匹中　逸脱が行われた箇所 1 匹 1 日
被験物質投与群　投与量 500mg/kg　25 匹中　逸脱が行われた箇所 2 匹（うち 1 匹 1 日、1 匹 2 日）
被験物質投与群　投与量 1000mg/kg　25 匹中　逸脱が行われた箇所 6 匹（うち 1 匹 2 日、1 匹 3 日、1 匹 4 日、1 匹 5 日、1 匹 6 日、1 匹 7 日）
（注）投与量の「mg/kg」は、動物体重 1kg 換算での投与量。

【試験番号 0934】雌
溶媒対照群　25 匹中　逸脱が行われた箇所 1 匹 6 日
被験物質投与群　投与量 250mg/kg　25 匹中　逸脱が行われた箇所なし
被験物質投与群　投与量 500mg/kg　25 匹中　逸脱が行われた箇所 1 匹 3 日
被験物質投与群　投与量 1000mg/kg　25 匹中　逸脱が行われた箇所 2 匹（うち 1 匹 4 日、1 匹 5 日）

なお、試験計画書では、「瀕死、状態異常などの理由で投与実施が困難な動物は、その日の投与は中止する」とされているところ、これらの投与中止の理由について、逸脱行為１の行為者Ａ氏はヒアリングにおいて「被験物質が腐食性の強い物質で、投与時に鼻腔の奥にゾンデに付着した被験物質により鼻腔粘膜が炎症を起こし剥離したことで呼吸困難を引き起こしたと推察される動物の死亡が予備試験で見られた。試験に必要な動物数を確保するため、同じような症状が見られるものについて、一時投与を中断し、回復を待つこととした」と述べていた。

また、試験番号 0933, 0934 の試験において、ＳＯＰでは、投与量指示シートは毎日試験責任者の確認を受けるべきとされているところ、1 週間に一度しかチェックを受けていなかったという逸脱行為も確認された。

なお、試験番号 0933, 0934 の試験については、最終試験結果報告書のとりまとめには至っていない。

３．2020 年 10 月に開始され、同年 11 月 24 日から 3 月に試験が中止されるまで被験物質２－クロロベンゾイルクロリドの投与が行われた p53 ヘテロ欠損マウスを用いた強制経口投与による中期発がん性試験（試験番号 0942、0943）について

試験番号 0942,0943 の試験においても逸脱行為１と類似の逸脱行為（「瀕死、状態異常等の理由で投与が困難な動物は、その日の投与は中止する」との試験計画書の記述に基づき動物の一般状態を踏まえ被験物質の投与を中止した動物・試験日について、投与（の全部または一部）を中止したその日の投与指示シートに、投与した旨のレ点が記録されていたこと。以下「逸脱行為２」という。）が確認された。

ただし、現存する書類からはいつどの動物で投与を中止したのかをすべて確認することは出来ず、逸脱行為の頻度を定量的に特定するには至っていない。

現存する物証（一部残っていた投与中止等を指示したメモ及び試験終了後に試験責任者に渡された投与量指示シート）から確認された被験物質投与が中止された動物（これらの物証における不一致の動物・試験日に限る）

【試験番号 0942】雄

被験物質投与群　投与量 1000mg/kg　25 匹中　逸脱が行われた箇所 3 匹（うち 1 匹 1 日、1 匹 7 日、1 匹 8 日）

【試験番号 0943】雌

被験物質投与群　投与量 1000mg/kg　25 匹中　逸脱が行われた箇所 1 匹 1 日

なお、試験番号 0942, 0943 の試験については、試験を途中で中止しており、試験報告書は作成されていない。

４．2020 年 9 月に開始され、同年 10 月 13 日から 11 月 23 日まで被験物質 3,5,5-トリメチルヘキサン酸の投与が行われたラットを用いた強制経口投与による肝中期発がん性試験（試験番号 0940）について

試験番号 0940 の試験においても類似の逸脱（「投与前の一般状態観察によって、投与の負担に耐えられない状態にあると判断された動物については、動物愛護の観点からその日の投与は中止して経過観察する」と記載されたＳＯＰに基づき動物の一般状態を踏まえ投与（の全部または一部）を中止した動物・試験日について、投与を中止したその日の投与量指示シートに、投与した旨のレ点が記録されていたこと。以下「逸脱行為３」という。）が確認された。

ただし、現存する書類からはいつどの動物で投与を中止したのかをすべて確認することは出来ず、逸脱行為の頻度を定量的に特定するには至っていない。

なお、逸脱行為３の行為者Ａ氏は、ヒアリングおいて、「回復しそうな動物には、投与量指示シートにはレ点を付け、回復せず試験系（注：試験対象動物）から除外するものは、状態異常（投与中止）と記載していた」旨を述べていた。

現存する物証（一部残っていた投与中止等を指示したメモ及び試験終了後に試験責任者に渡された投与量指示シート）から確認された被験物質投与が中止された動物（これらの物証における不一致の動物・試験日に限る）

【試験番号 0940】

被験物質投与群　投与量 600mg/kg　22 匹中　逸脱が行われた箇所 8 匹（うち 1 匹 1 日、4 匹 2 日、2 匹 3 日、1 匹 4 日）

また、試験番号 0940 の試験の投与量指示シートには、被験物質の最高用量群(600mg/kg)で肝部分切除手術の翌日から、著しい体重減少の回復が見られるまでの３～４日間、投与用量を 300mg/kg（試験計画書で予定していた量の半分）とする旨の記載があった。もっとも、日本バイオアッセイ研究センターでまとめられた試験番号 0940 の試験報告書の案では、これらの事項の詳細が記載されていた。

５．日本バイオアッセイ研究センターで行われた１及び２以外の動物試験における類似の逸脱行為（動物の一般状態を踏まえ投与を中止した動物・試験日について、投与を中止したその日から試験終了段階までの間において、投与量指示シートに投与した旨のレ点が記録されていたこと等）の調査について（経口強制投与試験関係）

Ａ氏自身や関係者の複数の証言から、逸脱行為事案１、逸脱行為２及び逸脱行為３はＡ氏自身及びＡ氏の指示※2 で行われていたと考えられる。

※２　Ａ氏は、2014 年から現在まで被験物質の投与も含めた動物の管理責任者として在籍

「投与前の一般状態観察によって、投与の負担に耐えられない状態にあると判断された動物について、その日の投与は中止して経過観察する」という運用を始めた時期について、Ａ氏は、動物の一般状態を踏まえ投与中止を行ったのは 2015 年の被験物質を反復投与する試験からと証言している。先述の通りこれらの投与中止自体は、試験計画やＳＯＰ※3又は動物愛護の観点から行われるものであり、問題となるものではない。

※３　ＳＯＰには、令和 2 年 6 月の改定の時に、「投与前の一般状態観察によって、投与の負担に耐えられない状態にあると判断された動物については、動物愛護の観点からその日の投与は中止して経過観察する」と明記された。

この証言に関し、2013 年より被験物質の投与を請け負っていた協力会社の社員のヒアリングでは、いつかははっきりとした記憶が無いものの以前より被験物質の経口強制投与が行われた試験において、瀕死、状態異常などの理由で投与実施が困難な動物に対して投与中止※4を行ったことがあったとの複数の証言があった。

※４　上記の他、規定量投与できないケースとして、強制経口投与を行った際、誤投与等投与時のミス、液漏れ等により、規定量投与したにも関わらず結果として動物の体外に被験物質の一部があふれてしまったことはあるが、シリンジが空になっている場合、投与量指示シートには、投与済みのレ点を記録することとしているとの証言もあった。

また、投与量指示シートとは別に、投与実施が困難な瀕死、状態異常の動物については、すべてではないものの「要注意動物観察記録」を残すとの協力会社社員の証言が複数あった。そこで、要注意動物観察記録の有無を調査したところ、2014 年に実施された試験では、被験物質の投与期間中の要注意動物観察記録は存在しなかったが※5、2015 年に実施された試験のうち、試験番号 0870（4-(1,1,3,3-テトラメチルブチル)フェノールの肝中期発がん性試験）及び試験番号 0871（1-フェニルアミノ-4-イソプロピルアミノベンゼンの肝中期発がん性試験）では、被験物質の投与期間中の要注意動物観察記録が残されていた（すなわち、投与期間中、要注意動物観察記録を残す必要のあった一般状態の悪い動物が存在している）。

※５　2014 年に実施された直接投与の試験中、唯一、試験番号 0847 については、動物番号 1317 について 2014 年 10 月 29 日～11 月 2 日の間、要注意動物観察記録が残されているが、同期間中は、被験物質の投与は行われていない期間であった。

なお、投与量指示シートに「投与中止」が記載されているのは、2014 年以降では、2015 年に実施された試験番号 0871（1-フェニルアミノ-4-イソプロピルアミノベンゼンの肝中期発がん性試験）が初めてであった。

このように協力会社社員の証言や要注意動物観察記録の記載状況は、Ａ氏の証言と齟齬は見られない。

次に、2015 年以降、投与前の一般状態観察によって、投与の負担に耐えられない状態にあると判断された動物について、被験物質の投与中止が行われていた中で、類似の逸脱（「瀕死、状態異常などの理由で投与実施が困難な動物は、その日の投与は中止する」との試験計画書の記述に基づき動物の一般状態を踏まえ被験物質の投与を中止した動物・試験日について、投与を中止したその日から試験終了段階までの間において、投与量指示シートに投与した旨のレ点が記録されていたこと等）が行われたかどうかを調査した。

Ａ氏は、類似の逸脱行為を 2019 年 3 月に開始され、同年 4 月 9 日から 10 月 9 日まで 1,3,5-トリス（2,3-エポキシプロピル）ヘキサヒドロ-1,3,5-トリアジン-2,4,6-トリオンを被験物質とする p53KO マウスを用いた強制経口投与による中期発がん性試験（試験番号 0923 及び 0924）で初めて行ったと証言している。

しかしながら、これらの試験に関し、逸脱行為１の特定に使用した試験責任者が試験中に作成したリストや逸脱行為２及び３の特定に使用した投与中止等を指示したメモは、ＳＯＰで作成及び保存することとされておらず、現存していない。よって、試験番号 0923 及び 0924 に関して、どの動物・試験日について、類似の逸脱を行ったのか特定することはできなかった。

また、投与を請け負っていた協力会社社員のヒアリングでは、類似の逸脱がいつから行われたかは記憶にないが、2021 年以前の 1～3 年の間でＡ氏から類似の逸脱を指示されることが多かったとの複数の証言があった。

これに関しても 2015 年から 2019 年に実施された試験に関して、逸脱行為１の特定に使用した試験責任者が試験中に作成したリストや逸脱行為２及び３の特定に使用した投与中止等を指示したメモは現存せず、2015 年から 2019 年の間に行われた試験に関して、どの動物・試験日について、類似の逸脱を行ったのか特定することはできなかった。

以上の通り、2015 年から 2019 年の間の試験について、類似の逸脱が行われていたかどうかについては、先述のＡ氏の証言以外、それらを特定する情報を得ることはできなかった。

なお、2015 年以降の厚生労働省が依頼した試験期間中反復継続的に被験物質の直接投与を行った試験ごとの「要注意動物観察記録」の記載状況は、別添２のリストの通りである。2018 年以降の試験で要注意動物観察記録の数は増加している。このうち、「要注意動物観察記録」が存在し、かつ、途中で動物が死亡等せず、最終の試験の評価に使われた可能性のある動物については、別添２のリスト中、下線を引いた動物となる。

６．強制経口投与以外の逸脱行為の調査について

日本バイオアッセイ研究センターでは、強制経口投与法による試験のほか、長期発がん性吸入試験や混餌による発がん性試験などを行っている。被験物質の投与に関して人が直接動物に投与作業を行う直接投与法以外の動物試験のうち、長期発がん性吸入試験については、被験ガスや粉じんのばく露試験実施中、15 分おきにばく露濃度が自動的にホストコンピュータに電子データとして記録されるようになっており、また、これらデータの修正に当たっては、ＳＯＰに基づき生データ訂正願書により試験責任者の承認を得た後に情報管理室が訂正作業を行うこととされている。

したがって、仮に投与を中止したとしても、投与をしたように装う記録を残すことは困難であると考えられる。また、ばく露濃度測定を行う機器（ガスクロマトグラフィー）の校正を２週間毎に行う際、標準液の調整や機器へのデータ入力で人の手が入る余地があるため、これらについて現存するキャリブレーションの記録の調査を行ったが、故意に校正の値を変更し、ばく露濃度を見かけよりも高く又は低くするといった操作が行われた形跡は確認されなかった。

〇ＳＯＰ及び試験計画書に定められた手順と実際の手順の比較（逸脱行為１及び逸脱行為２に関するもの）
※表中で「生データ」とは、投与記録等、試験に関して得られた観察結果の原本のこと

ＳＯＰや試験計画書で定められた手順 （【　】内は該当するＳＯＰコード・名称・箇所又は試験計画書）	実際の手順（２-クロロベンゾイルクロリドの遺伝子改変マウス（rasH2 マウス）を用いた中期発がん性試験の場合）
１　化学物質の投与の手順について （１）当日の動物への被験物質の投与量の設定 ・　生存する全動物について、週１回、投与前に体重を測定する。 【試験番号 0933, 0934 試験計画書 13-3-2】 ・　試験計画書の規定に従って体重を測定し、投与前に、その体重値を基に投与量を算出する。 【SOP ADM-001 経口等の投与方法　3.1(2)】	（１）当日の動物への被験物質の投与量の設定 ・　体重の測定は週１回、動物管理室の職員若しくは協力会社社員(以下「動物管理室職員等」という。)が行い、安全性調査情報処理システム飼育情報管理端末装置（以下「ＬＡ端末」という。）に入力していた。(電子天秤と端末がつながっており、天秤に載せると測定結果が自動的にＬＡ端末に表示される仕組み。) ※　当日の投与量は、上記で入力された体重データを基に自動的に算出され、動物管理室にある端末から、「投与量指示シート」を出力すると、同シートに自動的に印字される。
（２）動物の一般状態の観察 ・　生存する全動物について、毎日、投与前及び投与後に一般状態を観察する。 【試験番号 0933, 0934 試験計画書 13-3-1】	（２）動物の一般状態の観察 ・　動物管理室職員等は、生存する全動物について、毎日、投与前及び投与後に一般状態を観察していた。

・　飼育者等は、ＬＡ端末画面又は「一般状態観察記録」をみながら、ゲージ越しに動物の状態を個別に注意深く観察する。動物の状態異常が確認できない所見については、ゲージから取り出して観察する。 【SOP ANI-0207 動物の一般状態の観察　4.2(1)】 ・　一般状態所見をＬＡ端末に記録する場合は、スケジュール画面の「一般状態」を選択して個別に記録する。 【SOP ANI-0002 動物観察データの記録方法 4.2(3)】 ・　投与前の一般状態観察によって、投与の負担に耐えられない状態にあると判断された動物については、動物愛護の観点からその日の投与は中止して経過観察する。 【SOP ADM-0001　経口等の投与方法　3.1(6)】	・　一般状態観察の結果得られた所見は、ＬＡ端末に直接入力した。 ・　動物管理室職員等は、一般状態観察の結果、投与の負荷に耐えられない状態であると判断された動物については、Ａ氏に投与の有無の判断を仰いでいた。
（３）被験物質の投与 ・　動物をゲージから取り出して動物を保定する。 ・　ゾンデ※を口腔内に入れ、上顎に沿って食道に挿入し、静かに下ろしていく。 ・　ゾンデが胃内まで到達したら、調製被験物質を注入する。 ・　投与者は、投与量指示シートに投与動物のチェック、投与開始時間及び終了時間を記入しサインする。 【SOP ADM-0001　経口等の投与方法　3.2(3)】	（３）被験物質の投与 ・　投与は、SOP に定められた手順のとおり実施。 ※　動物管理室職員等は、被験物質を投与しなかった場合は、シートの該当部分は何も記載せず、空欄としていた。

<table>
<tr>
<td>※ゾンデ：先端が丸みを帯びた，容易に曲げることのできる柔軟な金属や合成樹脂の細い棒</td>
<td>※　Ａ氏の指示で、動物管理室職員等は、被験物質を投与しなかった場合に、シートの該当部分にレ点を付けていた場合がある。（【逸脱行為２】）</td>
</tr>
<tr>
<td>（４）投与後の観察
・　投与完了後、動物の状態を観察する。特に呼吸困難等の兆候がないかどうかを観察する。何らかの異常が認められた場合は、その旨を投与記録又は一般症状観察記録（ＬＡ端末入力によるものを含む。）に記録する。
【SOP ADM-0001　経口等の投与方法　3.2(5)】</td>
<td>（４）投与後の観察
・　投与後の観察は SOP の手順のとおりに実施。何らかの異常が認められた場合は、その旨をＬＡ端末に入力していた。

※　投与者が行う観察の他、Ａ氏が自ら別途観察する場合があり、その結果によりＡ氏から翌日の投与者に対し、伝言メモで投与の指示がある場合があった。</td>
</tr>
<tr>
<td>（５）試験責任者による投与記録の確認
・　試験責任者は、生データが正確に記載されていることを確認し、以下の区分に従って＜様式 DAT-08＞（試験責任者データ確認表）を記載する。若しくはこれに相当するゴム印を押印したもの、又は印刷された物の署名欄に日付を記載し、署名又は捺印を行う。
・データの種類と生データの分類及びその確認の頻度
動物を用いた試験：下表の通り
<table>
<tr><td>被験物質の調整及び投与データ
投与データ（A）</td><td>各調整及び投与毎に確認する。</td></tr>
</table>
【SOP DAT-0001　データの取扱い管理（総則）　4.4】</td>
<td>（５）試験責任者による投与記録の確認
・　試験責任者が投与量指示シートの記載内容を確認し、同シートに署名押印していた。

・　記載済み投与量指示シートは動物試験室内の所定の場所で一時保管された後、動物管理室職員等により、1 週間分まとめて試験責任者に届けられ、試験責任者はその際にまとめて確認していた。</td>
</tr>
</table>

・　試験終了までに得られる全ての生データについては各部門の責任者が管理し、当該試験の試験資任者が総括管理する。 【SOP DAT-0001　データの取扱い管理（総則）2】	・　１週間分まとめて試験責任者が確認した投与量指示シートは､確認後その都度、動物管理室に戻され、試験終了までの間、動物管理室で保管していた。試験終了後、全ての投与量指示シートが動物管理室から試験責任者に渡された。
２　投与記録（生データ）について （１）生データの正確な記録 ・　試験担当者は以下の事項を行う。（抜粋） 生データを標準操作手順書に従って速やかにかつ正確に記録 【SOP TFM-0003　職務分掌　4】 ・　生データにおいて明らかな誤記載、あるいは印字不良により印字が判読不可能となった場合等には、データの記入者もしくは、コンピュータ等の機器の操作者は、最初の記載事項を不明瞭にしない方法で訂正、あるいは再印字し、当該個所に訂正の理由と日付を記載し、署名又は捺印を行う。 【SOP DAT-0001　データの取扱い管理（総則）　5】	２　投与記録（生データ）の修正 （１）生データの正確な記録 ※　Ａ氏は、物質の投与を行わなかったため空欄としていた部分に、後からチェックマークを追記するという、不正確な記録を行った。【逸脱行為１】 ※　Ａ氏は、物質の投与を行わなかった動物のうち、回復しそうな動物については、投与量指示シートにレ点を付け、回復せず試験系（注：試験対象動物）から除外する動物については、状態異常（投与中止）と記録していた。【逸脱行為２】 ・　動物管理室職員等は、生データにおいて、日付の書き間違い等があった場合には、SOP の手順に従い、当該個所に訂正の理由と日付を記載し、署名又は捺印を行っていた。 ※　Ａ氏は、物質の投与を行わなかったため空欄としていた部分に、１（５）の試験責任者の署名押印後に、投与したことを示すチェックマークを追記した際に、

	当該個所に訂正の理由と日付、署名又は捺印を行わないことがあった。【逸脱行為１】

2014年以降に日本バイオアッセイ研究センターで行われた厚生労働省が依頼した直接投与試験のリスト

別添２

分類	物質No.	試験番号	化学物質	試験方法	投与経路	検討試験or予備試験or本試験	試験開始日	試験終了	『要注意観察記録』より確認できた情報 ※”○匹中▲匹”は、対照群○匹に対して、▲匹の要注意動物観察記録があったという意味 ※”動物番号○○　日付”は、日付の日に○○の番号の動物の要注意動物観察記録が存在したという意味		左記の『要注意観察記録』に対する投与量指示シートの記載 ※”動物番号○○　日付　記載内容”は、日付の日の○○の番号の動物の投与量指示シートには記載内容の記載がなされていたという意味	投与量指示シート記載（レ点以外） ※”動物番号○○　日付　記載内容”は、日付の日の○○の番号の動物の投与量指示シートには記載内容の記載がなされていたという意味 ※”記載内容”中”－”の様記は、動物が死亡等して試験系から外れていることを示す	備考
1	1	827	1,3-ジブロモプロパン	肝中期発がん	直接投与	本試験	2013.9.18	2014.3.28	110匹中0匹	◆溶媒対照群　22匹中なし ◆被験物質対照群　投与量　5ml/kg　22匹中なし ◆被験物質対照群　投与量　15ml/kg　22匹中なし ◆被験物質対照群　投与量　50ml/kg　22匹中なし ◆被験物質対照群　投与量　150ml/kg　22匹中なし ※陽性対照群は除く	左記無し	◆溶媒対照群 動物番号1005 2013.10.24～ － ◆被験物質対照群　投与量　5ml/kg 動物番号1102 2013.10.24～ － 動物番号1111 2013.10.24～ － 動物番号1119 2013.10.24～ － ◆被験物質対照群　投与量　15ml/kg 動物番号1203 2013.10.24～ － 動物番号1205 2013.10.24～ － 動物番号1213 2013.10.24～ － ◆被験物質対照群　投与量　50ml/kg 動物番号1302 2013.10.24～ － 動物番号1309 2013.10.24～ － ◆被験物質対照群　投与量　150ml/kg 動物番号1404 2013.10.24～ － 動物番号1407 2013.10.24～ － 動物番号1409 2013.10.24～ － 動物番号1418 2013.10.24～ － ※陽性対照群は除く	
1	2	826	2-ビニルピリジン	肝中期発がん	直接投与	本試験	2013.10.1	2014.3.28	110匹中0匹	◆溶媒対照群　22匹中なし ◆被験物質対照群　投与量　15ml/kg　22匹中なし ◆被験物質対照群　投与量　30ml/kg　22匹中なし ◆被験物質対照群　投与量　60ml/kg　22匹中なし ◆被験物質対照群　投与量　120ml/kg　22匹中なし ※陽性対照群は除く	左記無し	◆溶媒対照群 動物番号1012 2013.11.14～ － 動物番号1018 2013.11.14～ － ◆被験物質対照群　投与量　15ml/kg 動物番号1110 2013.11.14～ － 動物番号1112 2013.11.14～ － 動物番号1113 2013.11.14～ － ◆被験物質対照群　投与量　30ml/kg 動物番号1218 2013.11.6～ － ◆被験物質対照群　投与量　60ml/kg 動物番号1310 2013.11.14～ － ◆被験物質対照群　投与量　120ml/kg 動物番号1402 2013.12.4～ － 動物番号1405 2013.12.4～ － 動物番号1412 2013.11.14～ － 動物番号1419 2013.11.14～ － ※陽性対照群は除く	
1	3	847	1,4-ジブロモブタン	肝中期発がん	直接投与	本試験	2014.10.2	2015.03.31	88匹中1匹	◆溶媒対照群　22匹中なし ◆被験物質対照群　投与量　12.5ml/kg　22匹中なし ◆被験物質対照群　投与量　50ml/kg　22匹中なし ◆被験物質対照群　投与量　200ml/kg　22匹中1匹 動物番号1317 2014.10.29-11.2 ※陽性対照群は除く	◆溶媒対照群 ◆被験物質対照群　投与量　12.5ml/kg ◆被験物質対照群　投与量　50ml/kg ◆被験物質対照群　投与量　200ml/kg 動物番号1317 2014.10.29-11.2（投与量指示シートなし） ※陽性対照群は除く	◆溶媒対照群 動物番号1005 2014.11.24～ － 動物番号1009 2014.11.12～ － 動物番号1014 2014.11.12～ － 動物番号1016 2014.11.13～ － 動物番号1022 2014.11.12～ － ◆被験物質対照群　投与量　12.5ml/kg 動物番号1109 2014.11.12～ － ◆被験物質対照群　投与量　50ml/kg 動物番号1219 2014.11.12～ － 動物番号1222 2014.11.05～ － ◆被験物質対照群　投与量　200ml/kg 動物番号1302 2014.11.05～ － 動物番号1303 2014.11.12～ － 動物番号1305 2014.11.12～ － 動物番号1309 2014.11.12～ － 動物番号1310 2014.11.12～ － ※陽性対照群は除く	
1	4	848	1,2-ジクロロ-4-ニトロベンゼン	肝中期発がん	直接投与	本試験	2014.10.2	2015.03.31	88匹中0匹	◆溶媒対照群　22匹中なし ◆被験物質対照群　投与量　6ml/kg　22匹中なし ◆被験物質対照群　投与量　25ml/kg　22匹中なし ◆被験物質対照群　投与量　100ml/kg　22匹中なし ※陽性対照群は除く	左記無し	◆溶媒対照群 動物番号1003 2014.11.18～ － 動物番号1012 2014.11.19～ － 動物番号1013 2014.11.19～ － 動物番号1015 2014.11.19～ － 動物番号1019 2014.11.19～ － ◆被験物質対照群　投与量　6ml/kg 動物番号1107 2014.11.18～ － 動物番号1114 2014.11.21～ － ◆被験物質対照群　投与量　25ml/kg 動物番号1216 2014.11.19～ － 動物番号1220 2014.11.20～ － ◆被験物質対照群　投与量　100ml/kg 動物番号1309 2014.11.18～ － 動物番号1312 2014.11.19～ － ※陽性対照群は除く	
1	5	870	4-(1,1,3,3-テトラメチルブチル)フェノール	肝中期発がん	直接投与	本試験	2015.09.30	2016.03.15	88匹中1匹	◆溶媒対照群　22匹中なし ◆被験物質対照群　投与量　12.5ml/kg　22匹中なし ◆被験物質対照群　投与量　50ml/kg　22匹中なし ◆被験物質対照群　投与量　200ml/kg　22匹中1匹 動物番号1308 2015.11.26-27 ※陽性対照群は除く	◆溶媒対照群 ◆被験物質対照群　投与量　12.5ml/kg ◆被験物質対照群　投与量　50ml/kg ◆被験物質対照群　投与量　200ml/kg 動物番号1308 2015.11.26 レ, 11.27 － ※陽性対照群は除く	◆溶媒対照群 動物番号1006 2015.11.11～ － 動物番号1017 2015.11.12～ － ◆被験物質対照群　投与量　12.5ml/kg 動物番号1105 2015.11.11～ － 動物番号1109 2015.11.11～ － 動物番号1110 2015.11.11～ － 動物番号1117 2015.11.12～ － 動物番号1119 2015.11.12～ － ◆被験物質対照群　投与量　50ml/kg 動物番号1220 2015.11.12～ － ◆被験物質対照群　投与量　200ml/kg 動物番号1303 2015.11.11～ － 動物番号1308 2015.11.27～ － ※陽性対照群は除く	
1	6	871	1-フェニルアミノ-4-イソプロピルアミノベンゼン	肝中期発がん	直接投与	本試験	2015.09.30	2016.03.15	88匹中2匹	◆溶媒対照群　22匹中なし ◆被験物質対照群　投与量　4ml/kg　22匹中なし ◆被験物質対照群　投与量　15ml/kg　22匹中なし ◆被験物質対照群　投与量　60ml/kg　22匹中2匹 動物番号1303 2015.11.29-12.5 動物番号1308 2015.12.8 ※陽性対照群は除く	◆溶媒対照群 ◆被験物質対照群　投与量　4ml/kg ◆被験物質対照群　投与量　15ml/kg ◆被験物質対照群　投与量　60ml/kg 動物番号1303 2015.11.29-12.5 レ 動物番号1308 2015.12.8　投与中止 ※陽性対照群は除く	◆溶媒対照群 ◆被験物質対照群　投与量　4ml/kg ◆被験物質対照群　投与量　15ml/kg 動物番号1221 2015.11.19～ － ◆被験物質対照群　投与量　60ml/kg 動物番号1308 2015.12.08投与中止, 12.09～ － 動物番号1316 2015.11.19～ － 動物番号1321 2015.11.19～ － ※陽性対照群は除く	

2014年以降に日本バイオアッセイ研究センターで行われた厚生労働省が依頼した直接投与試験のリスト

別添２

分類	物質No.	試験番号	化学物質	試験方法	投与経路	検討試験or予備試験or本試験	試験開始日	試験終了	『要注意観察記録』より確認できた情報 ※”○匹中▲匹”は、対照群○匹に対して、▲匹の要注意動物観察記録があったという意味 ※”動物番号○○　日付”は、日付の日に○○の番号の動物の要注意動物観察記録が存在したという意味		左記の『要注意観察記録』に対する投与量指示シートの記載 ※”動物番号○○　日付　記載内容”は、日付の日の○○の番号の動物の投与量指示シートには記載内容の記載がなされていたという意味	投与量指示シート記載（レ点以外） ※”動物番号○○　日付　記載内容”は、日付の日の○○の番号の動物の投与量指示シートには記載内容の記載がなされていたという意味 ※”記載内容”中”－”の欄記は、動物が死亡等して試験系から外れていることを示す	備考
1	7	879	パラ - トルエンスルホン酸メチル	肝中期発がん	直接投与	本試験	2016.9.12	2017.2.15	88匹中1匹	◆溶媒対照群　22匹中なし ◆被験物質対照群　投与量　40ml/kg　22匹中なし ◆被験物質対照群　投与量　80ml/kg　22匹中なし ◆被験物質対照群　投与量　160ml/kg　22匹中1匹 動物番号1319 2016.11.12-13 ※陽性対照群は除く	◆溶媒対照群 ◆被験物質対照群　投与量　40ml/kg ◆被験物質対照群　投与量　80ml/kg ◆被験物質対照群　投与量　160ml/kg 動物番号1319 2016.11.12投与中止，11.13－ ※陽性対照群は除く	◆溶媒対照群 ◆被験物質対照群　投与量　40ml/kg 動物番号1103 2016.10.21～－ ◆被験物質対照群　投与量　80ml/kg ◆被験物質対照群　投与量　160ml/kg 動物番号1319 2016.11.12投与中止，11.13～－ ※陽性対照群は除く	
1	8	880	*m*-クロロフェノール	肝中期発がん	直接投与	本試験	2016.9.12	2017.2.15	88匹中3匹	◆溶媒対照群　22匹中なし ◆被験物質対照群　投与量　180ml/kg　22匹中なし ◆被験物質対照群　投与量　360ml/kg　22匹中1匹 動物番号1214 2016.10.30 ◆被験物質対照群　投与量　720ml/kg　22匹中2匹 動物番号1305 2016.11.17-21 動物番号1311 2016.11.21-26 ※陽性対照群は除く	◆溶媒対照群 ◆被験物質対照群　投与量　180ml/kg ◆被験物質対照群　投与量　360ml/kg 動物番号1214 2016.10.30 投与中止 ◆被験物質対照群　投与量　720ml/kg 動物番号1305 2016.11.17-21 レ 動物番号1311 2016.11.21-26 レ ※陽性対照群は除く	◆溶媒対照群 ◆被験物質対照群　投与量　180ml/kg 動物番号1109 2016.10.28～－ ◆被験物質対照群　投与量　360ml/kg 動物番号1214 2016.10.30 投与中止，10.31～－ ◆被験物質対照群　投与量　720ml/kg 動物番号1301 2016.11.4～－ 動物番号1316 2016.11.1～－ 動物番号1317 2016.10.31～－ ※陽性対照群は除く	
1	9	898	1,3,5-トリス（2,3-エポキシプロピル）ヘキサヒドロ-1,3,5-トリアジン-2,4,6-トリオン	肝中期発がん	直接投与	本試験	2017.09.08	2018.2.15	88匹中0匹	◆溶媒対照群　22匹中なし ◆被験物質対照群　投与量　3ml/kg　22匹中なし ◆被験物質対照群　投与量　10ml/kg　22匹中なし ◆被験物質対照群　投与量　30ml/kg　22匹中なし ※陽性対照群は除く	左記無し	◆溶媒対照群 ◆被験物質対照群　投与量　3ml/kg 動物番号1102 2017.10.18～－ 動物番号1111 2017.11.3～－ ◆被験物質対照群　投与量　10ml/kg ◆被験物質対照群　投与量　30ml/kg 動物番号1307 2017.10.31投与中止，11.1～－ 動物番号1308 2017.10.30～－ 動物番号1319　2017.10.27　レ点無し ※陽性対照群は除く	
1	10	899	カルシウム＝ジホルマート	肝中期発がん	直接投与	本試験	2017.09.08	2018.2.15	88匹中0匹	◆溶媒対照群　22匹中なし ◆被験物質対照群　投与量　250ml/kg　22匹中なし ◆被験物質対照群　投与量　500ml/kg　22匹中なし ◆被験物質対照群　投与量　1000ml/kg　22匹中なし ※陽性対照群は除く	左記無し	◆溶媒対照群 動物番号1009 2017.10.28投与中止，呼吸異常（頻呼吸、深呼吸），10.29～－ 動物番号1014 2017.10.26～－ 動物番号1016 2017.10.25～－ ◆被験物質対照群　投与量　250ml/kg 動物番号1108 2017.10.25～－ ◆被験物質対照群　投与量　500ml/kg 動物番号1203 2017.10.25～－ ◆被験物質対照群　投与量　1000ml/kg 動物番号1301 2017.11.2投与中止，11.3～－ 動物番号1311 2017.10.25～－ ※陽性対照群は除く	
1	11	910	4-アミノフェノール	肝中期発がん	直接投与	本試験	2018.9.10	2019.02.01	88匹中0匹	◆溶媒対照群　22匹中なし ◆被験物質対照群　投与量　50ml/kg　22匹中なし ◆被験物質対照群　投与量　100ml/kg　22匹中なし ◆被験物質対照群　投与量　200ml/kg　22匹中なし ※陽性対照群は除く	左記無し	◆溶媒対照群 動物番号1010 2018.10.17～－ 動物番号1013 2018.10.29～－ 動物番号1014 2018.10.21～－ ◆被験物質対照群　投与量　50ml/kg 動物番号1116 2018.11.01～－ 動物番号1120 2018.10.23～－ ◆被験物質対照群　投与量　100ml/kg 動物番号1204 2018.10.17～－ 動物番号1207 2018.10.17～－ 動物番号1211 2018.10.23～－ 動物番号1220 2018.10.17～－ ◆被験物質対照群　投与量　200ml/kg 動物番号1306 2018.11.10投与中止，11.11～－ 動物番号1307 2018.10.17～－ 動物番号1313 2018.11.5投与中止，11.6～－ ※陽性対照群は除く	
1	12	911	*o*-ニトロアニリン	肝中期発がん	直接投与	本試験	2018.9.10	2019.02.01	88匹中0匹	◆溶媒対照群　22匹中なし ◆被験物質対照群　投与量　150ml/kg　22匹中なし ◆被験物質対照群　投与量　200ml/kg　22匹中なし ◆被験物質対照群　投与量　400ml/kg　22匹中なし ※陽性対照群は除く	左記無し	◆溶媒対照群 動物番号1013 2018.11.5～－ ◆被験物質対照群　投与量　150ml/kg ◆被験物質対照群　投与量　200ml/kg 動物番号1206 2018.11.16投与中止，11.17～－ 動物番号1207 2018.11.8～－ 動物番号1216 2018.10.25～－ 動物番号1222 2018.11.22～－ ◆被験物質対照群　投与量　400ml/kg ※陽性対照群は除く	
1	13	927	5-クロロ-2-ニトロアニリン	肝中期発がん	直接投与	本試験	2019.10.01	2020.2.14	88匹中2匹	◆溶媒対照群　22匹中1匹 動物番号1009 2019.11.21-22 ◆被験物質対照群　投与量　50ml/kg　22匹中なし ◆被験物質対照群　投与量　100ml/kg　22匹中なし ◆被験物質対照群　投与量　200ml/kg　22匹中1匹 動物番号1319 2019.11.11-15 ※陽性対照群は除く	◆溶媒対照群 動物番号1009 2019.11.21 レ，11.22投与中止（モリバンド） ◆被験物質対照群　投与量　50ml/kg ◆被験物質対照群　投与量　100ml/kg ◆被験物質対照群　投与量　200ml/kg 動物番号1319 2019.11.11-15 レ ※陽性対照群は除く	◆溶媒対照群 動物番号1005 2019.11.7～－ 動物番号1009 2019.11.22投与中止（モリバンド），11.23～－ 動物番号1010 2019.12.4～－ ◆被験物質対照群　投与量　50ml/kg 動物番号1116 2019.11.7～－ ◆被験物質対照群　投与量　100ml/kg 動物番号1201 2019.11.7～－ ◆被験物質対照群　投与量　200ml/kg 動物番号1313 2019.11.7～－ 動物番号1317 2019.11.7～－ 動物番号1318 2019.11.7～－ ※陽性対照群は除く	

2014年以降に日本バイオアッセイ研究センターで行われた厚生労働省が依頼した直接投与試験のリスト

別添２

分類	物質No.	試験番号	化学物質	試験方法	投与経路	検討試験or予備試験or本試験	試験開始日	試験終了	『要注意観察記録』より確認できた情報 ※”○匹中▲匹”は、対照群○匹に対して、▲匹の要注意動物観察記録があったという意味 ※”動物番号○○　日付”は、日付の日に○○の番号の動物の要注意動物観察記録が存在したという意味		左記の『要注意観察記録』に対する投与量指示シートの記載 ※”動物番号○○　日付　記載内容”は、日付の日の○○の番号の動物の投与量指示シートには記載内容の記載がなされていたという意味	投与量指示シート記載（レ点以外） ※”動物番号○○　日付　記載内容”は、日付の日の○○の番号の動物の投与量指示シートには記載内容の記載がなされていたという意味 ※”記載内容”中”－”の様記は、動物が死亡等して試験系から外れていることを示す	備考
1	14	928	酢酸亜鉛（II）	肝中期発がん	直接投与	本試験	2019.10.01	2020.2.14	88匹中0匹	◆溶媒対照群　22匹中なし ◆被験物質対照群　投与量　75ml/kg　22匹中なし ◆被験物質対照群　投与量　150ml/kg　22匹中なし ◆被験物質対照群　投与量　300ml/kg　22匹中なし ※陽性対照群は除く	左記無し	◆溶媒対照群 動物番号1022 2019.11.15～ － ◆被験物質対照群　投与量　75ml/kg ◆被験物質対照群　投与量　150ml/kg 動物番号1211 2019.11.15～ － 動物番号1216 2019.11.28投与中止（モリバンド）, 11.29～ － ◆被験物質対照群　投与量　300ml/kg 動物番号1307 2019.11.22投与中止（モリバンド）, 11.23～ － 動物番号1310 2019.11.13～ － 動物番号1314 2019.11.15～ － 動物番号1318 2019.11.28投与中止（モリバンド）, 11.29～ － ※陽性対照群は除く	
1	15	940	3,5,5-トリメチルヘキサン酸	肝中期発がん	直接投与	本試験	2020.09.10	2021.02.01	88匹中5匹	◆溶媒対照群　22匹中なし ◆被験物質対照群　投与量　150ml/kg　22匹中なし ◆被験物質対照群　投与量　300ml/kg　22匹中なし ◆被験物質対照群　投与量　600ml/kg　22匹中5匹 動物番号1305 2020.10.17-18 動物番号1307 2020.10.18-20 動物番号1308 2020.10.18-21 動物番号1309 2020.10.15-18 動物番号1310 2020.10.16-21 ※陽性対照群は除く	◆溶媒対照群 ◆被験物質対照群　投与量　150ml/kg ◆被験物質対照群　投与量　300ml/kg ◆被験物質対照群　投与量　600ml/kg 動物番号1305 2020.10.17 投与中止（状態異常）, 10.18 － 動物番号1307 2020.10.18-19 レ, ※2020.10.20手術日 動物番号1308 2020.10.18-19 レ, ※2020.10.20手術日 動物番号1309 2020.10.15-18 レ 動物番号1310 2020.10.16-19 レ, ※2020.10.20手術日 2020.10.21 体重減少が著しいことから本日よりしばらく投与用量を300mg/kgとする ※陽性対照群は除く	◆溶媒対照群 動物番号1002 2020.11.22～ － 動物番号1007 2020.10.20～ － 動物番号1016 2020.10.21～ － 動物番号1022 2020.10.21～ － ◆被験物質対照群　投与量　150ml/kg 動物番号1104 2020.10.20～ － 動物番号1106 2020.10.20～ － 動物番号1110 2020.10.20～ － 動物番号1114 2020.10.22～ － ◆被験物質対照群　投与量　300ml/kg 動物番号1204 2020.10.20～ － ◆被験物質対照群　投与量　600ml/kg 動物番号1304 2020.10.18～ － 動物番号1305 2020.10.17 投与中止（状態異常）, 10.18～ － 動物番号1307 2020.10.20～ － 2020.10.21 体重減少が著しいことから本日よりしばらく投与用量を300mg/kgとする 2020.10.25 状態回復が見られるため本日より投与用量を600mg/kgへもどす ※陽性対照群は除く	
1	16	941	炭酸ジフェニル	肝中期発がん	直接投与	本試験	2020.09.10	2021.02.01	88匹中1匹	◆溶媒対照群　22匹中なし ◆被験物質対照群　投与量　150ml/kg　22匹中なし ◆被験物質対照群　投与量　300ml/kg　22匹中1匹 動物番号1210 2020.11.27 ◆被験物質対照群　投与量　600ml/kg　22匹中なし ※陽性対照群は除く	溶媒対照群 ◆被験物質対照群　投与量　150ml/kg ◆被験物質対照群　投与量　300ml/kg 動物番号1210 2020.11.27 投与中止（モリバンド） ◆被験物質対照群　投与量　600ml/kg ※陽性対照群は除く	溶媒対照群 ◆被験物質対照群　投与量　150ml/kg ◆被験物質対照群　投与量　300ml/kg 動物番号1210 2020.11.27 投与中止（モリバンド）, 11.28～ － 動物番号1217 2020.11.18～ － ◆被験物質対照群　投与量　600ml/kg 動物番号1316 2020.10.31～ － ※陽性対照群は除く	

2014年以降に日本バイオアッセイ研究センターで行われた厚生労働省が依頼した直接投与試験のリスト

別添２

分類	物質No.	試験番号	化学物質	試験方法	投与経路	検討試験or予備試験or本試験	試験開始日	試験終了	『要注意観察記録』より確認できた情報 ※”○匹中▲匹”は、対照群○匹に対して、▲匹の要注意動物観察記録があったという意味 ※”動物番号○○　日付”は、日付の日に○○の番号の動物の要注意動物観察記録が存在したという意味		左記の『要注意観察記録』に対する投与量指示シートの記載 ※”動物番号○○　日付　記載内容”は、日付の日の○○の番号の動物の投与量指示シートには記載内容の記載がなされていたという意味	投与量指示シート記載（レ点以外） ※”動物番号○○　日付　記載内容”は、日付の日の○○の番号の動物の投与量指示シートには記載内容の記載がなされていたという意味 ※”記載内容”中”－”の様記は、動物が死亡等して試験系から外れていることを示す	備考
2	17	900	4-(1,1,3,3-テトラメチルブチル)フェノール（**物質No.5**）	中期発がん（遺伝子改変マウス）	直接投与	本試験	2017.09.08	2019.3.29	100匹中1匹	◆溶媒対照群　25匹中1匹 動物番号1019 2018.3.13-20 ◆被験物質対照群　投与量　50ml/kg　25匹中なし ◆被験物質対照群　投与量　100ml/kg　25匹中なし ◆被験物質対照群　投与量　200ml/kg　25匹中なし ※陽性対照群は除く	◆溶媒対照群 動物番号1019 2018.3.13-20 レ ◆被験物質対照群　投与量　50ml/kg ◆被験物質対照群　投与量　100ml/kg ◆被験物質対照群　投与量　200ml/kg ※陽性対照群は除く	◆溶媒対照群 ◆被験物質対照群　投与量　50ml/kg 動物番号1112 2018.1.20投与前死亡発見，1.21～ － ◆被験物質対照群　投与量　100ml/kg ◆被験物質対照群　投与量　200ml/kg 動物番号1302 2018.2.28～ － 動物番号1323 2018.1.2～ － ※陽性対照群は除く	
2	17	901		中期発がん（遺伝子改変マウス）	直接投与	本試験	2017.09.08	2019.3.29	100匹中2匹	◆溶媒対照群　25匹中なし ◆被験物質対照群　投与量　50ml/kg　25匹中1匹 動物番号2105 2018.2.20-22 ◆被験物質対照群　投与量　100ml/kg　25匹中なし ◆被験物質対照群　投与量　200ml/kg　25匹中1匹 動物番号2307 2018.3.19-20 ※陽性対照群は除く	◆溶媒対照群 ◆被験物質対照群　投与量　50ml/kg 動物番号2105 2018.2.20-21投与中止，2.22～ － ◆被験物質対照群　投与量　100ml/kg ◆被験物質対照群　投与量　200ml/kg 動物番号2307 2018.3.19投与中止，3.20 － ※陽性対照群は除く	◆溶媒対照群 動物番号2022 2018.3.17～ － 動物番号2025 2018.2.13～ － ◆被験物質対照群　投与量　50ml/kg 動物番号2105 2018.2.20-21投与中止，2.22～ － ◆被験物質対照群　投与量　100ml/kg ◆被験物質対照群　投与量　200ml/kg 動物番号2307 2018.3.19投与中止，3.20～ － ※陽性対照群は除く	
2	17	906		中期発がん（遺伝子改変マウス）	直接投与	本試験	2018.03.06	2019.10.31	100匹中7匹	◆溶媒対照群　25匹中なし ◆被験物質対照群　投与量　50ml/kg　25匹中1匹 動物番号1124 2018.8.10-13 ◆被験物質対照群　投与量　100ml/kg　25匹中1匹 動物番号1204 2018.8.24-9.11 ◆被験物質対照群　投与量　200ml/kg　25匹中5匹 動物番号1301 2018.8.14-9.11 動物番号1310 2018.5.8-10，5.22-30，6.12-22，7.17-20 動物番号1313 2018.5.1-10，9.30-10.2 動物番号1316 2018.5.22-6.7，8.11-14 動物番号1325 2018.6.26-7.2 ※陽性対照群は除く	◆溶媒対照群 ◆被験物質対照群　投与量　50ml/kg 動物番号1124 2018.8.10-**12**投与休止(状態異常のため)，8.13 － ◆被験物質対照群　投与量　100ml/kg 動物番号1204 2018.8.24-9.11 レ ◆被験物質対照群　投与量　200ml/kg 動物番号1301 2018.8.14-9.10 レ，9.11 － 動物番号1310 2018.5.8-10 レ，5.22-30 レ，6.12-22 レ，7.17-19 レ，7.20 － 動物番号1313 2018.5.1-10 レ，9.30-10.1 レ，**10.2 －** 動物番号1316 2018.5.22-6.7 レ，8.11-13 レ，8.14 － 動物番号1325 2018.6.26-7.1 レ，7.2 － ※陽性対照群は除く	◆溶媒対照群 ◆被験物質対照群　投与量　50ml/kg 動物番号1124 2018.8.10-**12**投与休止(状態異常のため)，8.13～ － ◆被験物質対照群　投与量　100ml/kg ◆被験物質対照群　投与量　200ml/kg 動物番号1301 2018.9.11～ － 動物番号1310 2018.7.20～ － 動物番号1316 2018.8.14～ － 動物番号1317 2018.7.30投与中止（瀕死のため），7.31～ － 動物番号1325 2018.7.2～ － ※陽性対照群は除く	
2	17	907		中期発がん（遺伝子改変マウス）	直接投与	本試験	2018.03.06	2019.10.31	100匹中7匹	◆溶媒対照群　25匹中なし ◆被験物質対照群　投与量　50ml/kg　25匹中なし ◆被験物質対照群　投与量　100ml/kg　25匹中なし ◆被験物質対照群　投与量　200ml/kg　25匹中7匹 動物番号2301 2018.8.13-14 動物番号2303 2018.5.8-21 動物番号2304 2018.5.7-6.5 動物番号2307 2018.5.8-6.5，6.13-17，7.25-26 動物番号2310 2018.5.8-18，6.14-19，8.9-20 動物番号2311 2018.7.11-12 動物番号2313 2018.6.13-17，6.24-7.2 ※陽性対照群は除く	◆溶媒対照群 ◆被験物質対照群　投与量　50ml/kg ◆被験物質対照群　投与量　100ml/kg ◆被験物質対照群　投与量　200ml/kg 動物番号2301 2018.8.13 レ，8.14 投与中止（瀕死のため） 動物番号2303 2018.5.8-20 レ，5.21 投与中止（瀕死のため） 動物番号2304 2018.5.7-6.4 レ，6.5 － 動物番号2307 2018.5.8-6.5 レ，6.13-17 レ，7.25 レ，7.26 － 動物番号2310 2018.5.8-18 レ，6.14-19 レ，8.9 レ，8.20 投与中止（瀕死のため） 動物番号2311 2018.7.11 レ，7.12 投与中止（瀕死のため） 動物番号2313 2018.6.13-17 レ，6.24-7.2 レ ※陽性対照群は除く	◆溶媒対照群 ◆被験物質対照群　投与量　50ml/kg 動物番号2123 2018.9.4 投与中止（状態異常のため） ◆被験物質対照群　投与量　100ml/kg 動物番号2207 2018.4.15～ － 動物番号2213 2018.4.30-5.2 投与休止（状態異常のため），5.6 投与休止（状態異常のため），5.7～ － ◆被験物質対照群　投与量　200ml/kg 動物番号2301 2018.8.14 投与中止（瀕死のため），8.15～ － 動物番号2303 2018.5.21 投与中止（瀕死のため），5.22～ － 動物番号2304 2018.6.5～ － 動物番号2305 2018.7.7～ － 動物番号2307 2018.7.26～ － 動物番号2310 2018.8.20 投与中止（瀕死のため），8.21～ － 動物番号2311 2018.7.12 投与中止（瀕死のため），7.13～ － 動物番号2313 2018.4.29 投与休止（状態異常のため），7.27～ － ※陽性対照群は除く	
2	18	912		中期発がん（遺伝子改変マウス）	直接投与	本試験	2018.09.07	2020.03.31	100匹中2匹	◆溶媒対照群　25匹中1匹 動物番号1001 2019.2.12-13 ◆被験物質対照群　投与量　3ml/kg　25匹中なし ◆被験物質対照群　投与量　13ml/kg　25匹中なし ◆被験物質対照群　投与量　30ml/kg　25匹中1匹 動物番号1308 2019.1.28-2.5	◆溶媒対照群 動物番号1001 2019.2.12 レ，2.13 投与中止（瀕死） ◆被験物質対照群　投与量　3ml/kg ◆被験物質対照群　投与量　13ml/kg ◆被験物質対照群　投与量　30ml/kg 動物番号1308 2019.1.28-2.2 レ，2.3-4 投与中止（状態異常），2.5 －	◆溶媒対照群 動物番号1001 2019.2.13 投与中止（瀕死），2.14～ － ◆被験物質対照群　投与量　3ml/kg 動物番号1118 2018.10.30投与中止（モリバンド），10.31～ － 動物番号1122 2019.2.26～ － ◆被験物質対照群　投与量　13ml/kg ◆被験物質対照群　投与量　30ml/kg 動物番号1308 2019.2.3-4 投与中止（状態異常），2.5～ －	
2	18	913		中期発がん（遺伝子改変マウス）	直接投与	本試験	2018.09.07	2020.03.31	100匹中4匹	◆溶媒対照群　25匹中1匹 動物番号2018 2019.1.28-2.4 ◆被験物質対照群　投与量　3ml/kg　25匹中1匹 動物番号2125 2019.3.1-4 ◆被験物質対照群　投与量　10ml/kg　25匹中なし ◆被験物質対照群　投与量　30ml/kg　25匹中2匹 動物番号2301 2019.3.19-20 動物番号2303 2019.3.14	◆溶媒対照群 動物番号2018 2019.1.28-2.4 レ ◆被験物質対照群　投与量　3ml/kg 動物番号2125 2019.3.1 投与中止（呼吸異常、体温低下），3.2-3投与中止（呼吸異常），3.**4**投与中止（モリバンド）），**3.6～ －** ◆被験物質対照群　投与量　10ml/kg ◆被験物質対照群　投与量　30ml/kg 動物番号2301 2019.3.19 レ，3.20 － 動物番号2303 2019.3.14　投与中止（呼吸異常、体温低下）	◆溶媒対照群 動物番号2018 2019.1.28-2.4 レ ◆被験物質対照群　投与量　3ml/kg 動物番号2125 2019.3.1 投与中止（呼吸異常、体温低下），3.2-3投与中止（呼吸異常），3.**4**投与中止（モリバンド），3.**6～** － ◆被験物質対照群　投与量　10ml/kg ◆被験物質対照群　投与量　30ml/kg 動物番号2301 2019.3.20～ － 動物番号2303 2019.3.14　投与中止（呼吸異常、体温低下），3.15～ －	
2	18	923	1,3,5-トリス（2,3-エポキシプロピル）ヘキサヒドロ-1,3,5-トリアジン-2,4,6-トリオン （**物質No.9**）	中期発がん（遺伝子改変マウス）	直接投与	本試験	2019.03.05	2020.11.30	100匹中21匹	◆溶媒対照群　25匹中なし ◆被験物質対照群　投与量　3ml/kg　25匹中なし ◆被験物質対照群　投与量　10ml/kg　25匹中4匹 動物番号1208 2019.9.10-14 動物番号1211 2019.9.17-18 動物番号1212 2019.9.20-29 動物番号1221 2019.9.27-10.2 ◆被験物質対照群　投与量　●ml/kg　25匹中17匹 動物番号1301 2019.6.18 動物番号1303 2019.9.5-7 動物番号1304 2019.8.21-27 動物番号1306 2019.9.5-9.16 動物番号1307 2019.6.10-11 動物番号1308 2019.6.27-28 動物番号1310 2019.9.3-11 動物番号1311 2019.9.5-7 動物番号1312 2019.8.30-9.4 動物番号1313 2019.7.30-31 動物番号1314 2019.6.23-24 動物番号1316 2019.8.17-19 動物番号1317 2019.10.1-10.3 動物番号1319 2019.6.7-8 動物番号1320 2019.6.27-28 動物番号1321 2019.6.27-28 動物番号1322 2019.6.24-25 ※陽性対照群は除く	◆溶媒対照群 ◆被験物質対照群　投与量　3ml/kg ◆被験物質対照群　投与量　10ml/kg 動物番号1208 2019.9.10-13 レ，9.14 － 動物番号1211 2019.9.17 レ，9.18 － 動物番号1212 2019.9.20-28 レ，9.29 － 動物番号1221 2019.9.27-10.1 レ，10.2投与中止（モリバンド） ◆被験物質対照群　投与量　●ml/kg 動物番号1301 2019.6.18 投与中止（モリバンド） 動物番号1303 2019.9.5-6 レ，9.7 － 動物番号1304 2019.8.21-26 レ，8.27 － 動物番号1306 2019.9.5-15 レ，9.16 － 動物番号1307 2019.6.10 レ，6.11 － 動物番号1308 2019.6.27 投与中止（状態異常），6.28 － 動物番号1310 2019.9.3-9 レ，9.10 投与中止（状態異常），9.11～ － 動物番号1311 2019.9.5-6 レ，9.7 － 動物番号1312 2019.8.30-9.3 レ，9.4 － 動物番号1313 2019.7.30 レ，7.31 － 動物番号1314 2019.6.23 投与中止（状態異常），6.24 － 動物番号1316 2019.8.17 レ，19 投与中止（モリバンド） 動物番号1317 2019.10.1-2 レ，10.3 － 動物番号1319 2019.6.7 レ，6.8 － 動物番号1320 2019.6.27 投与中止（状態異常），6.28－ 動物番号1321 2019.6.27 投与中止（状態異常），6.28－ 動物番号1322 2019.6.24 レ，6.25 投与中止（モリバンド） ※陽性対照群は除く	◆溶媒対照群 動物番号1001 2019.9.7～ － ◆被験物質対照群　投与量　3ml/kg ◆被験物質対照群　投与量　10ml/kg 動物番号1208 2019.9.14～ － 動物番号1211 2019.9.18～ － 動物番号1212 2019.9.29 投与中止（モリバンド），9.30～ － 動物番号1216 2019.9.22～ － 動物番号1219 2019.8.19 投与中止（モリバンド），8.20～ － 動物番号1220 2019.10.6～ － 動物番号1221 2019.10.2 投与中止（モリバンド），10.3～ － ◆被験物質対照群　投与量　●ml/kg 動物番号1301 2019.6.18 投与中止（モリバンド），6.19～ － 動物番号1303 2019.9.7～ － 動物番号1304 2019.8.27～ － 動物番号1306 2019.9.16～ － 動物番号1307 2019.6.11～ － 動物番号1308 2019.6.27 投与中止（状態異常），6.28～ － 動物番号1310 2019.9.10 投与中止（状態異常），9.11～ － 動物番号1311 2019.9.7～ － 動物番号1312 2019.8.30-9.4～ － 動物番号1313 2019.7.31～ － 動物番号1314 2019.6.23 投与中止（状態異常），6.24～ － 動物番号1316 2019.8.19 投与中止（モリバンド），8.20～ － 動物番号1317 2019.10.3～ － 動物番号1319 2019.6.8～ － 動物番号1320 2019.6.27 投与中止（状態異常），6.28～ － 動物番号1321 2019.6.27 投与中止（状態異常），6.28～ － 動物番号1322 2019.6.25 投与中止（モリバンド），6.26～ － ※陽性対照群は除く	

2014年以降に日本バイオアッセイ研究センターで行われた厚生労働省が依頼した直接投与試験のリスト

別添２

分類	物質No.	試験番号	化学物質	試験方法	投与経路	検討試験or予備試験or本試験	試験開始日	試験終了	『要注意観察記録』より確認できた情報 ※”○匹中▲匹”は、対照群○匹に対して、▲匹の要注意動物観察記録があったという意味 ※”動物番号○○　日付”は、日付の日に○○の番号の動物の要注意動物観察記録が存在したという意味		左記の『要注意観察記録』に対する投与量指示シートの記載 ※”動物番号○○　日付　記載内容”は、日付の日の○○の番号の動物の投与量指示シートには記載内容の記載がなされていたという意味	投与量指示シート記載（レ点以外） ※”動物番号○○　日付　記載内容”は、日付の日の○○の番号の動物の投与量指示シートには記載内容の記載がなされていたという意味 ※”記載内容”中”－”の様記は、動物が死亡等して試験系から外れていることを示す	備考
2	18	924	2-クロロベンゾイルクロリド	中期発がん（遺伝子改変マウス）	直接投与	本試験	2019. 03. 05	2020. 11. 30	100匹中22匹	◆溶媒対照群　　25匹中なし ◆被験物質対照群　投与量　3ml/kg　25匹中1匹 動物番号2122 2019. 5. 28-6. 28 ◆被験物質対照群　投与量　10ml/kg　25匹中5匹 試験基準2206 2019. 7. 23-8. 15 動物番号2208 2019. 9. 9-16 動物番号2213 2019. 9. 3-11 動物番号2217 2019. 8. 20 動物番号2223 2019. 9. 19-20 ◆被験物質対照群　投与量　30ml/kg　25匹中16匹 動物番号2302 2019. 9. 14-16 動物番号2303 2019. 9. 6-13 動物番号2305 2019. 7. 4-9、9. 9-14 動物番号2309 2019. 6. 22-23 動物番号2310 2019. 8. 23-29 動物番号2311 2019. 6. 24-25 動物番号2312 2019. 9. 9-13 動物番号2313 2019. 8. 23-9. 3 動物番号2316 2019. 8. 17-19 動物番号2317 2019. 8. 4-5 動物番号2318 2019. 9. 6-14 動物番号2319 2019. 7. 11-12 動物番号2320 2019. 7. 4-12 動物番号2323 2019. 8. 31-9. 6 動物番号2324 2019. 9. 3-5 動物番号2325 2019. 7. 28-30 ※陽性対照群は除く	◆溶媒対照群 ◆被験物質対照群　投与量　3ml/kg 動物番号2122 2019. 5. 28-6. 27 レ、6. 28 － ◆被験物質対照群　投与量　10ml/kg 動物番号2206 2019. 7. 23-8. 15　レ 動物番号2208 2019. 9. 9-14 レ、9. 15 投与中止（状態異常）、8. 16 － 動物番号2213 2019. 9. 3-10 レ、3. 11 － 動物番号2217 2019. 8. 20 投与中止（モリバンド搬出） 動物番号2223 2019. 9. 19 レ、9. 20 投与中止（モリバンド） ◆被験物質対照群　投与量　30ml/kg 動物番号2302 2019. 9. 14投与中止（状態異常）、9. 15 レ、9. 16 － 動物番号2303 2019. 9. 6-12 レ、9. 13 － 動物番号2305 2019. 7. 4-9 レ、9. 9-13 レ、9. 14 － 動物番号2309 2019. 6. 22 投与中止（状態異常）、6. 23 － 動物番号2310 2019. 8. 23-28 レ、8. 29 － 動物番号2311 2019. 6. 24 投与中止（状態異常）、6. 25投与中止（モリバンド） 動物番号2312 2019. 9. 9-12 レ、9. 13 － 動物番号2313 2019. 8. 23-9. 2 レ、9. 3 － 動物番号2316 2019. 8. 17 レ、8. 18 投与中止（状態異常）、9. 19 － 動物番号2317 2019. 8. 4 レ、■5 投与中止（状態異常）、■6 投与中止（モリバンド） 動物番号2318 2019. 9. 6-8 レ、9. 9 投与中止（状態異常）、9. 10-13 レ、9. 14 － 動物番号2319 2019. 7. 11 レ、7. 12 － 動物番号2320 2019. 7. 4-11 レ、7. 12 － 動物番号2323 2019. 8. 31 投与中止（状態異常）、9. 1-5 レ、9. 6 － 動物番号2324 2019. 9. 3-4 レ、9. 5 － 動物番号2325 2019. 7. 28-29 レ、7. 30 **投与中止（モリバンド）** ※陽性対照群は除く	◆溶媒対照群 動物番号2007 2019. 6. 28～ － ◆被験物質対照群　投与量　3ml/kg 動物番号2122 2019. 6. 28～ － ◆被験物質対照群　投与量　10ml/kg 動物番号2205 2019. 7. 22～ － 動物番号2206 2019. 9. 15投与中止（状態異常）、8. 16～ － 動物番号2211 2019. 8. 16 投与中止（モリバンド）、8. 17～ － 動物番号2213 2019. 3. 11～ － 動物番号2217 2019. 8. 20 投与中止（モリバンド搬出）、9. 21～ 動物番号2223 2019. 9. 20 投与中止（モリバンド）、9. 21～ ◆被験物質対照群　投与量　30ml/kg 動物番号2301 2019. 8. 8 投与中止（モリバンド）、8. 9～ － 動物番号2302 2019. 9. 14投与中止（状態異常）、9. 16～ － 動物番号2303 2019. 9. 13～ － 動物番号2305 2019. 9. 14～ － 動物番号2306 2019. 7. 2 投与中止（モリバンド）、7. 3～ － 動物番号2309 2019. 6. 22投与中止（状態異常）、6. 23～ － 動物番号2310 2019. 8. 29～ － 動物番号2311 2019. 6. 24 投与中止（状態異常）、6. 25投与中止（モリバンド）、6. 26～ 動物番号2312 2019. 9. 13～ － 動物番号2313 2019. 9. 3～ － 動物番号2316 2019. 8. 18投与中止（状態異常）、9. 19～ － 動物番号2317 2019. ■5 投与中止（状態異常）、■6 投与中止（モリバンド）、■7～ 動物番号2318 2019. 9. 9 投与中止（状態異常）、9. 14～ － 動物番号2319 2019. 7. 12～ － 動物番号2320 2019. 7. 12～ － 動物番号2321 2019. 6. 18投与中止（モリバンド）、6. 19～ － 動物番号2322 2019. 6. 13～ － 動物番号2323 2019. 8. 31 投与中止（状態異常）、9. 6～ － 動物番号2324 2019. 8. 31 投与中止（状態異常）、9. 5～ 動物番号2325 2019. 7. 30 **投与中止（モリバンド）、7. 31～ －** ※陽性対照群は除く	
2	19	933		中期発がん（遺伝子改変マウス）	直接投与	本試験	2020. 03. 05	2020. 03. 30	100匹中5匹	◆溶媒対照群　　25匹中なし ◆被験物質対照群　投与量　250ml/kg　25匹中なし ◆被験物質対照群　投与量　500ml/kg　25匹中なし ◆被験物質対照群　投与量　1000ml/kg　25匹中5匹 動物番号1301 2020. 6. 14-23 動物番号1302 2020. 6. 19-22 動物番号1313 2020. 6. 19-23 動物番号1322 2020. 5. 5-12 動物番号1325 2020. 8. 4-11	◆溶媒対照群 ◆被験物質対照群　投与量　250ml/kg 動物番号1120 2020. 4. 24　レ ◆被験物質対照群　投与量　500ml/kg 動物番号1213 2020. 5. 11　レ 動物番号1222 2020. 4. 25-26　レ ◆被験物質対照群　投与量　100ml/kg 動物番号1301 2020. 6. 2-4　投与中止（状態異常）、6. 14 レ、6. 15-16投与中止（状態異常）、6. 17-23 レ、7. 8投与中止（モリバンド搬出） 動物番号1302 2020. 6. 19 レ、6. 20-21投与中止（状態異常）、6. 22 － 動物番号1308 2020. 5. 30-6. 2　レ 動物番号1313 2020. 6. 19投与中止（状態異常）6. 20-23　レ 動物番号1317 2020. 5. 14-17　レ 動物番号1321 2020. 5. 14-17　レ、6. 15投与中止（状態異常）、6. 16　レ 動物番号1322 2020. 5. 5-12　レ 動物番号1323 2020. 5. 19-25　レ 動物番号1325 2020. 8. 4-11　レ	◆溶媒対照群 動物番号1001 2020. 8. 17投与前死亡、8. 18～ － ◆被験物質対照群　投与量　250ml/kg 動物番号1117 2020. 7. 17～ － 動物番号1118 2020. 8. 29～ － ◆被験物質対照群　投与量　500ml/kg ◆被験物質対照群　投与量　100ml/kg 動物番号1301 2020. 6. 2-4　投与中止（状態異常）、6. 15-16投与中止（状態異常）、7. 8投与中止（モリバンド搬出）、7. 9～ － 動物番号1302 2020. 6. 20-21投与中止（状態異常）、6/22～ － 動物番号1305 2020. 9. 18～ － 動物番号1313 2020. 6. 19投与中止（状態異常） 動物番号1314 2020. 7. 26～ － 動物番号1321 6. 15投与中止（状態異常） 動物番号1322 2020. 6. 24～　－	試験責任者メモ（投与量指示シート空白箇所） ◆溶媒対照群 ◆被験物質対照群　投与量　250ml/kg 動物番号1120 2020. 4. 24 ◆被験物質対照群　投与量　500ml/kg 動物番号1213 2020. 5. 11 動物番号1222 2020. 4. 25-26 ◆被験物質対照群　投与量　100ml/kg 動物番号1301 2020. 6. 2-4, 6. 15-16, 7. 8 動物番号1302 2020. 6. 20-21 動物番号1308 2020. 5. 30, 6. 1-6. 2 動物番号1313 2020. 6. 19-21 動物番号1317 2020. 5. 14-17 動物番号1321 2020. 5. 14-17, 6. 15-16 動物番号1322 2020. 5. 5-8, 5. 10-11 動物番号1323 2020. 5. 19-25
2	19	934		中期発がん（遺伝子改変マウス）	直接投与	本試験	2020. 03. 05	2020. 04. 01	100匹中7匹	◆溶媒対照群　　25匹中1匹 動物番号2010 2020. 9. 24-10. 1 ◆被験物質対照群　投与量　250ml/kg　25匹中2匹 動物番号2116 2020. 9. 5-7 動物番号2123 2020. 8. 19-20 ◆被験物質対照群　投与量　500ml/kg　25匹中1匹 動物番号2222 2020. 9. 13-14 ◆被験物質対照群　投与量　1000ml/kg　25匹中3匹 動物番号2307 2020. 5. 9-21、6. 15-22 動物番号2310 2020. 5. 14-18, 5. 21 動物番号2322 2020. 6. 29	◆溶媒対照群 動物番号2010 2020. 9. 24-30　レ, 10. 1 － ◆被験物質対照群　投与量　250ml/kg 動物番号2116 2020. 9. 4-6 投与中止（状態異常）、9. 7 投与中止（モリバンド搬出） 動物番号2122 2020. 7. 14 投与中止（状態異常） 動物番号2123 2020. 8. 19 レ、8. 20 － ◆被験物質対照群　投与量　500ml/kg 動物番号2219 2020. 5. 25-27 レ 動物番号2222 2020. 9. 13 レ, 9. 14 － ◆被験物質対照群　投与量　1000ml/kg 動物番号2307 2020. 5. 9-21 レ、6. 15-22 レ 動物番号2310 2020. 5. 14-18 レ、5. 21 レ 動物番号2322 2020. 6. 27 投与中止（状態異常）、6. 29 投与中止（モリバンド） 動物番号2325 2020. 7. 17 投与無（モリバンド）	◆溶媒対照群 動物番号2010 2020. 10. 1 － 動物番号2012 2020. 8. 24～ － ◆被験物質対照群　投与量　250ml/kg 動物番号2116 2020. 9. 4-6 投与中止（状態異常）、9. 7 投与中止（モリバンド搬出）、9. 8～ － 動物番号2123 2020. 8. 20～ － ◆被験物質対照群　投与量　500ml/kg 動物番号2222 2020. 9. 14～ － ◆被験物質対照群　投与量　1000ml/kg 動物番号2307 2020. 7. 6～ － 動物番号2322 2020. 6. 27 投与中止（状態異常）、6. 29 投与中止（モリバンド）、6. 30～ － 動物番号2325 2020. 7. 17 投与無（モリバンド）、7. 18～ －	試験責任者メモ（投与量指示シート空白箇所） ◆溶媒対照群 動物番号2010 2020. 9. 24-25, 9. 27-30 ◆被験物質対照群　投与量　250ml/kg 動物番号2116 2020. 9. 4-7 動物番号2122 2020. 7. 14 ◆被験物質対照群　投与量　500ml/kg 動物番号2219 2020. 5. 25-27 ◆被験物質対照群　投与量　1000ml/kg 動物番号2307 2020. 5. 9-13 動物番号2310 2020. 5. 14-17 動物番号2322 2020. 6. 27, 6. 29 動物番号2325 2020. 7. 17
2	19	942		中期発がん（遺伝子改変マウス）	直接投与	本試験	2020. 10. 26	2022. 06. 30	100匹中7匹	◆溶媒対照群　　25匹中なし ◆被験物質対照群　投与量　250ml/kg　25匹中1匹 動物番号1116 2021. 3. 4-9 ◆被験物質対照群　投与量　500ml/kg　25匹中1匹 動物番号1220 2021. 2. 11-12 ◆被験物質対照群　投与量　1000ml/kg　25匹中5匹 動物番号1312 2021. 2. 20-3. 2 動物番号1313 2021. 2. 27-3. 13 動物番号1316 2021. 2. 6-11 動物番号1318 2021. 2. 25-3. 24 動物番号1319 2021. 1. 20-1. 22　2. 9-2. 22 ※2021. 3に試験中止 ※陽性対照群は除く	◆溶媒対照群 ◆被験物質対照群　投与量　250ml/kg ◆被験物質対照群　投与量　500ml/kg ◆被験物質対照群　投与量　1000ml/kg 動物番号1220 2021. 2. 11 投与中止（状態異常）、2. 12 － ◆被験物質対照群　投与量　1000ml/kg 動物番号1312 2021. 2. 20-3. 2 レ 動物番号1313 2021. 2. 27-3. 5 レ 動物番号1316 2021. 2. 6-10 レ、2. 11 － 動物番号1318 2021. 2. 25-3. 5 レ 動物番号1319 2021. 1. 20-1. 22 レ、2. 9-2. 22 レ ※2021. 3に試験中止 ※陽性対照群は除く	◆溶媒対照群 ◆被験物質対照群　投与量　250ml/kg ◆被験物質対照群　投与量　500ml/kg 動物番号1116 2021. 3. 4-5 レ 動物番号1216 2020. 11. 30 投与時死亡、12. 1～ － 動物番号1220 2021. 2. 11 投与中止（状態異常）、2. 12～ － ◆被験物質対照群　投与量　1000ml/kg 動物番号1310 2020. 12. 29～ － 動物番号1314 2020. 12. 16 空白 動物番号1316 2021. 2. 11～ － 動物番号1317 2020. 12. 2 空白 ※2021. 3に試験中止 ※陽性対照群は除く	
2	19	943		中期発がん（遺伝子改変マウス）	直接投与	本試験	2020. 10. 26	2022. 06. 30	100匹中1匹	◆溶媒対照群　　25匹中なし ◆被験物質対照群　投与量　250ml/kg　25匹中なし ◆被験物質対照群　投与量　500ml/kg　25匹中1匹 動物番号2214 2021. 3. 9-13、3. 17-23 ◆被験物質対照群　投与量　1000ml/kg　25匹中なし ※2021. 3に試験中止 ※陽性対照群は除く	◆溶媒対照群 ◆被験物質対照群　投与量　250ml/kg ◆被験物質対照群　投与量　500ml/kg 動物番号2214 2021. 3. ■-13、3. 17-23　(3月に試験を中止したため記録なし) ◆被験物質対照群　投与量　1000ml/kg ※2021. 3に試験中止 ※陽性対照群は除く	◆溶媒対照群 ◆被験物質対照群　投与量　250ml/kg ◆被験物質対照群　投与量　500ml/kg ◆被験物質対照群　投与量　1000ml/kg 動物番号2302 2020. 11. 27 投与前死亡、11. 28～ － 動物番号2310 21. 1. 19 空白 ※2021. 3に試験中止 ※陽性対照群は除く	